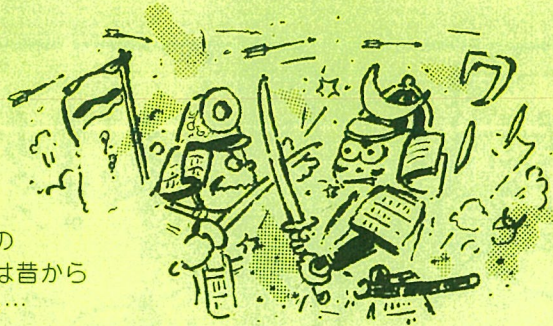


第4話

— 中 —

中地区と岩法寺地区の  
境のあたりを地元の人たちは昔から  
「合戦平」と呼んでいる…



たまがわの  
民話と伝説

# 合戦平

かっ せん だいら

「この年も  
合戦平から  
へっぴり坂にかけて  
入会地（草刈り場）  
さのぐり、中地区と  
岩法寺地区の  
農民の間で争いが  
おきていた…」

時は、江戸時代天明三年  
この年は大飢饉であった

「合戦平」  
地元の人たちに  
この地名の由来を  
たずねると…

「一連の世目からこの辺り  
一帯で戦いが行われ多くの  
武者が討ち死にした。  
その遺体を葬り供養塚  
を建て、四十九日と段々と  
唱えた」との事である。

おい  
次郎兵衛  
いくさだ  
場所  
合戦平

あう  
平作

中村に次郎兵衛（かまご）  
という百姓が住んでいた。

当時は草を刈り  
推肥にしていたから  
争いは深刻であった

ありからの  
飢饉で  
農民たちも  
すっかり  
気が立ちや  
あう  
役人の  
くまにやさんよ





おい  
「平作  
臭いで  
ねえが、



ーそんなこんなにして  
合戦平にまると  
両地区の農民が  
今にも戦いを始の  
ようとするばかりで  
あった。

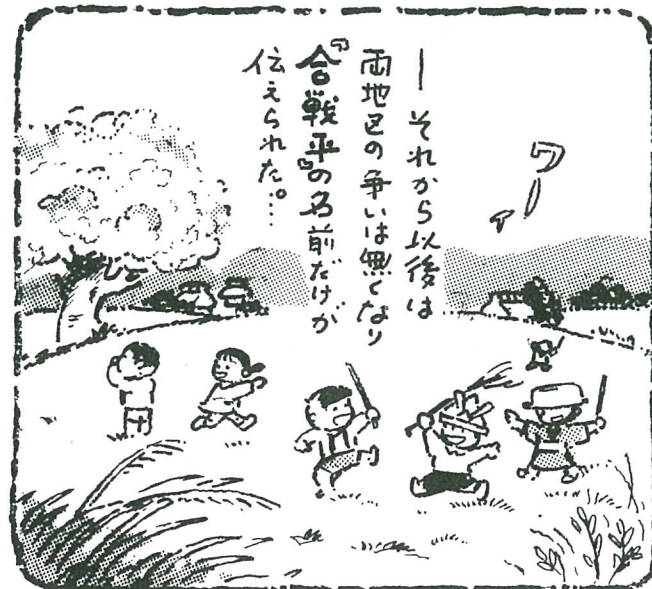
ウオー  
ウオー

ままた!  
ままた!



……このままだ。  
荷を積んだ馬も、  
あまりに長い坂なんて  
このままだから  
『せつなべえ』をした  
から『へっぴり坂』  
……なんだ。

おれし  
ここんとこ  
たいした  
もん食った  
ねえんと  
ついで



ーそれから以後は  
両地区の争いは無くなっ  
合戦平の名前だけが  
伝えられた。



そこへ騒ぎを聞きつけた  
周辺村々の庄屋が訪れ  
争いを止めるよう仲裁に入り  
ようやく両地区の農民が  
納得し和解となった。

ホ  
ホ